

大金岩・三宮神社・牛尾宮神社

八王子山の山頂付近にある巨石は、朝日に照らされて輝くことから「大金岩」と呼ばれるようになった。その名は 8 世紀の『古事記』に初めて登場する。もともとは大山咋神が祀られており、日吉大社の境内で初めて神を祀った場所とされている。1662 年の地震で岩肌が大きく割れ、山を転がって八王子山の山頂に続く道の近くに現在の場所がある。

大金岩の両脇には、京都の清水寺のように、山の側面から突き出た台座の上に建てられた 2 つの神社がある。この神社は、本殿と拝殿を一つの屋根で結合する「権現造り」という様式を改良したものである。琵琶湖に面し、晴れた日には湖の向こうに三上山（愛称：近江富士）を望むことができる。

この二つの神社は、二神の激しい姿が宿る場所と信じられている。岩の左側にあるのが三宮神社で、女性の神である賀茂玉依姫が祀られている。安産、子宝、無病息災、長寿を祈願する。右側は牛尾宮神社で、男神の大山咋神を祀っている。山林の守護、治水、土木、家内安全、商売繁盛を祈願する。また、樹下宮と東本宮の本殿には、それぞれ穏やかな性格の神様が祀られている。

この二神は夫婦神とされ、年に一度、山王祭で東本宮の拝殿に渡御する。この祭りのために、3 月の第 1 日曜日に神輿が山から運ばれ、2 つの本殿に納められる。この時期、それぞれの神社の外壁に提灯が灯され、「求愛の期間」が始まる。4 月 12 日の夜、2 基の神輿は猛スピードで山を下り、東本宮へと運ばれる。

三宮神社と牛尾宮神社はともに重要文化財に指定されている。